

記 入 日 2013 年 1 月 11 日

## 1. 概 要

実践団体名	くにたち地域外国人のための防災連絡会 (KUNIBO)		
連絡先	連絡係：山崎由紀子 Tel/Fax: 0 4 2-5 7 4-4 0 5 2		
プランタイトル	くにたち地域外国人のための防災対策		
プランの対象者※1	くにたち地域在住 外国人	対象とする 災害種別※2	災害全般、その他

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

公民館が外国人のための防災の情報の拠点と位置づけられたことから、この地域で学ぶ外国にルーツを持つ人々が防災の意識を高め、助けられる側から助ける存在に成長して行き、自然に地域にとけ込み、共生を自然体で進めて行くこと。大学町という特性を生かし、一時滞在者であっても留学生を協力者として育成し、日本の現状を知らしめ、あるいは、これを彼たちの国において活用のヒントに繋がることを視野に入れた研修、実践を立案し、地域住民、大学、行政が一体となって防災、外国人との共生につなげていくことを目的とする。

## 【プランの概要】 様々な角度から人々の結びつきを作る企画、実施

1. 生活防災マップの作成
2. 2ヶ月に一度の防災関係、および外国人の生活に関連する講演、および実践研修  
(例：立川断層について、防災会館で研修、AED 体験、応急処置体験など)

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

1. 人々が知り合うこと (公民館を中心に全ての住民、行政、国の機関 (大学、JR)、地元企業)
2. 現実を見聞きすること
3. 外国人にとって、この地に住む意味を再確認してもらえること

## 2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	外国語支援ボランティアの登録開始	3月末、一橋大学留学生に外国語ボランティアとしての登録依頼	2012.4.28-外国語支援ボランティア研修1 防災食の体験、町の歴史、震災の痕跡について学ぶ
5月	1. 外国語支援ボランティアの実践 2. 地元企業との連携企画	1. 大学、防災課、公民館との相互に準備を行う 2. 公民館も含み業者との打合せ チラシ配布	2012.5.1-外国語支援ボランティア研修2 立川防災館において、消火訓練、起震車などの体験、日本語ができない留学生に対して外国語支援ボランティアが通訳ボランティアを実践 2012.5.30 「住宅を地震から守るためには」 ミサワホームの東京都耐震登録診断員による講演
6月	外国語支援ボランティアの活動PR	ポスターの準備	市役所のあらゆる部署において、外国語支援ボランティアの活動を確認 公民館ロビーフォーラムに参加
7月	1. 東日本大震災について学ぶ 2. AED 体験と心臓マッサージ	発表者との打合せ  防災課、消防署、公民館との打合せ 特に女性消防団を活用 チラシ配布	2012.7.25 大震災の現実を画像を通し、ボランティア体験を学ぶ 2012.7.29-外国語支援ボランティア研修3 AEDと心臓マッサージを体験 AEDは直接防災に結びつくものではないが、高齢化している住民が増加している中、学ぶことと、参加者の親睦の両立が震災の共助に役立つ
8月	1. 生活防災マップの検討 2. 公立学校で行われた地域避難訓練に参加	作成者との打合せ  それぞれのスタッフが見学、参加	生活防災マップに盛り込む内容：食べ物を得ることができるスーパーマーケットとドラッグストアを入れる 飲み水を確保できる井戸を入れる等の工夫 2012.8.26 応急処置や消火訓練などの体験
9月	地元 JR 駅長との懇談会	公民館と共に打ち合わせ	2012.9.26 多くの帰宅困難者を公民館が受入れたことから、今後の JR の対応等を含めて、東日本大震災の JR の対応について講演。外国人にとって車内、駅構内のアナウンスが聞き取れないことが多いという問題から、放送文の紹介
10月	防災教育チャレンジプラン中間発表	資料作成	2012.10.13 防災教育チャレンジプラン中間発表
11月	* 防災連絡会の活動の対象者が多い日本語学習者のスピーチを聞く 1年に一度開催される * 東京都の会議は同じ多摩地区の国際交流関係の人々との交流の場でもある * 直接的には防災教育とは関係ないが、外国人や日本語ボランティアが知っておくべきことを学ぶ * ホームページ作成について学ぶ * 大人だけでなく子どもを持つ外国人の人々を知る機会	PR チラシの作成 その他必要な手伝い  KUNIBO が活動としている生活防災マップの紹介など、これまでの活動紹介の資料作成  講師および会場の調整  大学、他のボランティア団体との打合せ	2012.11.17 日本語学習者のスピーチの会において防災連絡会の PR  2012.11.22 東京都主催「在住外国人支援のための合同会議」に参加、テーマの一つである《外国人キーパーソン》と共に参加 2012.11.27 市民課による「外国人住民の制度改正について」 2012.22.28 KUNIBO の活動を PR するためのホームページ作成準備 2012.11.30 グローバルファミリーくになち 幼児を持つ留学生と地域の幼児を持つ住民とが「子どもの AED 体験」を通じて交流
12月	応急処置を学ぶ	公民館と日赤奉仕団との打合せ、チラシ作り	2012.12.20-外国語支援ボランティア研修3 日赤奉仕団による応急処置の体験と親睦
1月	ナンバ歩き	講師との打合せ チラシ作り	2013.1.30 予定 3.11 夜を徹して帰宅した人々を知り、持久力のある歩き方を学ぶ予定
2月	生活防災マップ完成	中、韓、英、日のマップの最終確認	生活防災マップの配布
3月	公民館合同避難訓練 防災時の食べ物の予定	公民館主催事業終了企画として、公利連と共催 講師選択打合せ等の予定	2013.3.23 予定 合同避難訓練 (土曜日、日本語学習者)  2013.3.27 予定 震災当時、2日目、3日目等の食事疑似体験

### 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1/3】※3

タイトル	・外国語支援ボランティア研修-1～4、 ・講演「住宅を地震から守るためには」、「JR 国立駅長との懇談会」、 「外国人住民の制度改革について」等
実施月日（曜日）	2012. 4. 28(土)～2012. 12. 20
実施場所	公民館, 立川防災館等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：河津、中田、山崎 所属・役職等、氏 名：加藤登志男（国立市防災課長）、立川防災館職員、中井一成（ミサワホーミング）、久保素弥子（JR 国立駅長）、小原（日赤奉仕団）国立市（市民課長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前 10 時～午後 1 時まで、午後 1 時～午後 2 時
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 学習会、13 体験学習
活動目的※5	5 災害を疑似体験、6 防災に関する知識を深める、8 防災意識を高める、9 災害対応能力の育成、10 その他（地域の人々を知る機会）
達成目標	新しくスタートした企画関係者の顔合わせと防災関係の研修人々が集い学習、交流の中から繋がりを強める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	町の歴史を知り、過去の震災や災害の痕跡を映像を通して学ぶ 防災食を作り、試食、AED, 地震、煙、消火など災害対策研修、 外国語支援ボランティアの実践および関係者との親睦
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	関係団体、個人を講師として依頼 防災食、パソコン、スクリーン、プロジェクターの貸出依頼 記録としての写真撮影、チラシ、ポスター、食材、食器など
参加人数	各企画：15名～20名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼 ¥20,000、食材、食器など：¥20,000、交通費：¥10,000
成果と課題	【成果】国立の町の全景、地形等を知る機会、地震の恐怖を感じ取る、防災食、防災関係全般を知る。JR の災害に対する対応、地元企業の住宅への地震対策などを知る。 【課題】全員の外国語支援ボランティアが集まらなかった
成果物	公民館を会場に、社会教育の観点から防災と自分の住む町を学んだこと

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2/3】※3

タイトル	「くにたち生活防災マップ」作成
実施月日（曜日）	2012. 4. 1～2012. 2. 28
実施場所	公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：山崎 河津 氏名 武田、張涛（中国人）、英蘭（韓国人）その他5人以上 所属・役職等：担当職員
所要時間または 「コマ数×単位時間」	年間10回以上の打合 外国人から見て分かりやすい、ハンディ、スーパーマーケット、ドラッグストアも掲載、境界線外の近隣市への道路表記、分かりやすい絵表記、ルビをふり、日本語教材として、防災だけではなく普段の生活にも利用できる工夫
プログラムの カテゴリ、形式※4	2 学習会、12 研究
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり、6 防災に関する知識を深める、8 防災意識を高める、9 災害対応能力を高める、その他日本語学習教材として、生活便利帳の役割
達成目標	中国語、韓国語、英語それぞれに対応して日本語を付記
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	プログラムに沿って下書きの日本語、中国語、韓国語、英語に翻訳を依頼、作成者と打合せ印刷校正段階まで終了
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	マップ企画者、マップ制作者、翻訳者、印刷所 パソコン、プリンター、カラーインク、用紙
参加人数	10名（制作に参加した人々）
経費の総額・内訳概要	¥200,000
成果と課題	【成果】日本語をまだ習得していない外国人にとって普段から使えるマップとして活用できる  【課題】紙面に制限があるため、必要な情報が網羅できなかった
成果物	くにたち防災マップ（中国語、韓国語、英語、に対する日本語）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3/3】※3

タイトル	東日本大震災ボランティアの報告
実施月日（曜日）	2012. 7. 25（水）
実施場所	公民館講座室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：山崎 氏 名：中田秀佳寿 所属・役職等：KUNIFA 日本語ボランティア
所要時間または 「コマ数×単位時間」	午後1時～午後2時
プログラムの カテゴリ、形式※4	2 学習会
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	3. 11 脳裏の中での記憶が薄まる中を再度現実の自然の恐怖を感じさせた
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	水質調査が専門である中田氏の大震災の報告はこれまでと違った視点で、海から大きな被害を受けた陸地を映像で紹介
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講師として依頼 パソコン、スクリーン、プロジェクターの貸出依頼
参加人数	15名
経費の総額・内訳概要	5,000円 講師料、その他経費
成果と課題	【成果】地震の規模の大きさ、それに伴う被害の大きさに改めて自然災害の恐怖を再認識  【課題】日本語講座が夏休みに入り、参加者が少なかったこと
成果物	自然災害に対する心構えの構築と被災者を思いやる心

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>防災に関係した内容だけでは、参加者を集めるのは大変。そのため、お楽しみ会的なことを付随して企画を立てるように努力した。</p> <p>また、定例会が2ヶ月に1度（毎奇数月）に行っている。対象が公民館の日本語学習者とそのボランティアの人々のため、日本語授業が午後12時30分から45分頃に終了するのに合わせ、一人一つのおにぎり程度の昼食を用意して、引き続き人々が残れる工夫をした。</p> <p>また、日本語学習者、ボランティアに取って、防災関係を含み、彼たちに取って必要な情報を与えるための講座も含め行うこととした。</p> <p>その合間に2012年4月からスタートさせた外国語支援ボランティアの研修も組み込み、休む暇無く企画の立案に追われた。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>講演と企画に大勢の人々の参加を促したいとの考えから、PRのため、チラシを毎回作り配布したが、やはり紙媒体の弱さを感じている。人から人へ、口から口へと広がっていくためにスタッフは他の団体の企画にもできるだけ参加し、そこで、自分たちの企画のPRを行ったため、ボランティアスタッフとしては限界まで来ていると感じている。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>企画の立案、講師の依頼、会場の確保などの手はずが整っても人が参加しなければ企画は意味が無くなってしまう。また、特に外国語支援ボランティア研修実施に当たっては、2/3のメンバーが留学生や日中仕事を持っている人が多いため、日程の選択が一番の悩みだった。研修を受ける外国人支援ボランティアができるだけ多く参加できる企画と日程に苦勞した。</p>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	国立地域には国際交流グループが数団体あって、その団体との協力関係を持ちながら、企画を進めている。	講演、講習に参加協力
保護者・ PTAの組織		
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設	1. 一橋大学  2. 一橋大学国際教育センター、海外留学生相談室、国立交際交流会館  3. 国立市、市民協働推進課 2013年度より	留学生の外国語支援ボランティアに協力 (オリエンテーションに参加) グローバルファミリー (外国人留学生・教員のためのサポートネットワーク) 子どもを持つ留学生と地域の子どもを持つ家族との合同急病対応訓練。 市役所外国人相談窓口 に外国語支援ボランティアの提供
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	1. まほうのランプ	グローバルファミリー で共に協力団体となり、 企画運営を行った
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予定していた、2ヶ月に一度の講演会、研修や東京都の会議に参加して、地域の人々、地元大学、行政との連携が少し動き始めてこと。また、行政内でも縦割りの部分が、社会教育の現場の公民館と防災課のトップ同士が話し合い協力してくれたことは大きな成果。</li> <li>2. 国立市という小さな町の防災に対する企画が近隣市と比較して前進していることから、お互いにメーリングで情報の共有をする機会にも恵まれるようになったこと。それぞれの市の特徴ある取り組みに防災以外の点で多くの情報をもらえるメリットを感じている。</li> <li>3. これまで門を固く閉ざしていた大学が留学生を地域に外国語支援ボランティアとして協力させ手くれたことが、まだ、多くの課題を残すところではあるが、継続していくうちに確実な体制がとれるのではないかと期待される。</li> <li>4. 公民館が KUNIBO の活動の影響もあり、2011年度より防災教育に積極的に取り組みを始めた。2011年度の公民館大会では、国立公民館は防災と公民館について企画し、2012年度は10月より7回シリーズで防災を様々な角度から取り組んだ講座を開講。3月の最終月には公民館と公利連との KUNIBO とが防災訓練を行う等関心を深めている。</li> </ol>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>反省：人々を引きつける企画の立案。</p> <p>感想：人々は嫌なことは忘れるように気持ちを切り替えているのか、防災に関する意識が薄れてきていると感じる。</p> <p>課題：参加者を増やすこと</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持久力を持続する歩き方の講演と実践</li> <li>2. 生活防災マップの完成、配布</li> <li>3. 災害時の食事疑似体験</li> </ol> <p>2013年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一橋大学新規留学生の外国語支援ボランティア参加呼びかけ</li> <li>2. これまでの通り奇数月の定例会に合わせて防災関係学習会</li> <li>3. 防災ステッカーの見直しと校正を加え、新規防災ステッカーの作成準備</li> <li>4. 新しい企画の立案（地域防災カルタ→日本語学習教材を兼ねる）</li> <li>5. 外国語支援ボランティア研修実施</li> </ol>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

私たちは防災活動を行う上で、一番重要なのは人と人の繋がり（絆）の大切さだと感じている。それが「いざというとき」のための共助に繋がると信じている。

防災知識は地震大国に住む日本人だけに限らず、何人も実際に大地震、大災害が起これば免れようが無いということは頭の中でよく理解できているが、実際にそれに向き合うことは普通の生活に追われ、特に外国人に取ってみれば「話しには聞くが」程度で実感がない。更に言葉の障害もあり、異国の地で生活をしていく中で、先ずは安定した生活の構築が第一番ではないかと思われる。そのような条件の中で、ただ防災だけに特化して話題を広めていってもあまり、関心を集めることができないのではないかと感じている。そのため、直接的ではない企画も含め、できるだけ、毎回同じ顔ふれでなくても、集まる機会をできるだけ多く作り、そこで知り合う地域の人々との繋がりをその人にとって今後の絆に結びつけていってもらいたいと考えている。小さな規模と先の長い活動の展開がいつかは功を奏することと期待し、防災教育チャレンジの協力の下活動を継続させていくことに邁進したい。



(自由記述: 1/3)

(自由記述: 2/3)(自由記述: 3/3)